所報

美　濃　市　教　育　研　究　所
第３２１号平成２６年１月２１日発行
電　話（０５７５）３５－２３３４
ＦＡＸ（０５７５）３５－３１３４
e-mail：kyouikuken@city.mino.lg.jp

一年の計は元旦(正月)にあり

美濃市小学校長会長
田尻　裕文（美濃小）

新年明けましておめでとうございます。皆さんの家庭では、年末年始をどのように過ごされたでしょうか。年末は、大掃除など新年を迎える準備に、子どもたちも家族の一員として大活躍したことと思います。また、元旦の迎え方やお正月の過ごし方は、各家庭や地域によりさまざまだと思いますが、それぞれの家庭ならではの習慣や家族の団らんを大切にしてみえる方が多いのではないでしょうか。『一年の計は元旦(正月)にあり』とは、昔からよく使われることわざです。もともとは明代の中国で編纂された『月令広義』という、年間行事や儀式等についての解説書の中の“四計”という項の一節に由来するものだそうです。

その四計には、　一日の計は朝にあり。
一年の計は元旦（正月・春）にあり。
一生の計は勤にあり。
一家の計は身にあり。　……とあります。

これを訳すと「一日は朝の気持ちのあり方で決まり、一年は年のはじめの決意で決まる。人生はまじめに勤める（働く）ことで決まり、一家の将来は身の振り方（生き方）で決まる」といった意味のようです。

人間の成長には、節目が必要です。一日は朝のスタートが大切です。早起きしてしっかり朝食をとり、登校のための身支度など、規則正しい一日の始まりが一日の心身の活力を生み出します。特に、朝食をしっかり食べることは、睡眠によって下がっていた体温を上げ、体を目覚めさせたり、脳のエネルギーを活性化させたり、朝の排便を習慣づけたりするために、極めて重要だと言われています。

また、一年のスタートである元旦(正月)は、新たな目標や計画を掲げるのにとても適した節目で、昨年までのことをリセットして、新しい年をどのように過ごしていくか決めることができます。そのための「正すべき月」が正月です。どのように正したらいいのか。そのヒントは「正」の字をよく見ると浮かび上がってきます。「正」を分解すると「一」と「止」になります。つまり、一度立ち止まって考えることが大切です。そうすると正しいことは何か、今自分がやるべきことは何かを自分で考えたり、気付いたりできます。成長のために一度立ち止まる大切な節目の一つが「正月」なのです。

しかし、三日坊主という言葉もあります。正月に掲げた新たな目標や計画が三日坊主にならないよう、何か具体的な成果を得るためのコツは、「具体的な目標設定」と「スモールステップ」です。そして、“小さな成功体験”を積み重ね、意識の持続と自覚を図り、教師や保護者がタイミングよく評価し、認め励ましてあげることによって、子どもたちに自信を芽生えさせることが大切です。

今年も、美濃市の子どもたちの健やかな成長を目指し、市内の各小中学校が連携して、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成に取り組んでいきましょう。

「反転授業」は１０年後は主流となる！！？？

昨年ＴＶ等で、「反転授業」という教育方法が紹介される番組を視聴しました。一つの教育方法として、最近導入されてきているところがあるようです。
「反転授業」とはどのようなものか、少し考えてみたいと思います。

佐賀県武雄市のある小学校での新しい授業スタイル

子ども達は授業の動画ファイル（授業ビデオ）を入れたタブレット端末（ｉＰａｄ）を持ち帰り、自宅でその動画をみる。学校ではその授業ビデオでは分からなかった点を教え合いながら、応用問題を解きます。

現在学校で展開されている授業では「講義を受けること」が主流ですが、反転授業では「講義を受けることは宿題となります。教師は説明型の講義を動画として用意し（授業ビデオ）、それを児童が宿題として家庭などで閲覧しておきます。学校での授業時間は、児童たちが予習で得た知識を応用して問題を解いたり、議論を行ったりします。

学校の授業時間内の講義時間を減らすことで、授業中は教師が児童ひとりひとりに対してよりきめ細かい対応をすることができ、また、児童にとっても、自分のペースで学習に取り組める点もメリットです。ビデオ授業は動画が何度でも巻き戻せたり、再生速度なども調整できます。

東京大学の村上祐介准教授は「教職研修１月号」で以下のように述べている。

> 反転授業とは、授業の動画などを家庭で事前に予習しておき、実際の授業では、従来は宿題とされていた課題について、議論を行ったり、応用問題を解く形態を指す。授業→課題というこれまでの順序を「反転」させることからこのように呼ばれる。
>
> ２０００年以降のＩＣＴ（情報通信技術）の発展に伴い、米国の一部の小・中・高校で反転授業が導入され、大学にも広がっている。検証では、成績向上などがみられたという。
>
> 日本では、個人や私塾で試行されていたが、２０１３年１１月に、佐賀県武雄市が試験的に実施することで、注目されている。武雄市の試行では、先行してタブレット端末を配布している小学校の算数・理科を対象としている。児童は事前に教師が１０分程度の説明を行う動画を視聴し、簡単なテストに回答する。授業では、児童がつまずきがちな箇所の説明や相互の議論を中心に行われ、知識の習得と活用を図る。
>
> 反転授業は、基礎知識の習得と思考力育成の両立を図る試みとして位置づけられる。従来は、時間の制約から両者のどちらかに重点が置かれる傾向があったが、反転授業では事前の予習と授業の組み合わせで知識の習得・活用の両面を伸ばすことが期待されている。将来的にはこうした授業形態が主流になるのではないかとの見方もある。
>
> ただし、全員にタブレット端末を配布するなどして動画を視聴できる環境を確保する必要があることや、事前に映像を視聴することが不可欠になるため、家庭の協力や子どもへの働きかけがこれまで以上に求められる。教師の側がこうした授業に慣れる必要もあり、今後の普及に課題も少なくない。

また、東京大学大学院の山内祐平准教授は、１０年後には反転授業が主流になるという。
その理由を「実質的な学習時間が増えるから」と指摘し、次のように書いています。

> 高次の思考能力を育成する活動が普及しなかった最大の理由は「時間がない」ためであった。限られた授業時間に応用的な活動を導入すると、基礎知識を習得する時間が足りなくなってしまうのである。このことが「知識習得」と「思考能力」のどちらを大事かという論争になっている。
>
> 実際には、知識に基づかない高次思考能力は存在しないし、応用できない知識は無意味である。「知識習得」と「思考能力の獲得」を両立させる為には、学習時間を伸ばすしかないが、学校の時間はもはや隙間なく埋まっている。この難問を解く鍵になるのが、授業と自宅学習の連続化による学習時間の確保と学習目標に合わせた時間の再配置なのである。

良いことづくしの「反転授業」のようですが、**課題もあります。**その一つが保護者の協力です。低学年ほど、大人が映像を見るように促す必要があり、保護者の協力が欠かせません。家庭環境の厳しい子どもには、放課後に学習の場を設けるなどの必要も要ります。また、タブレット教材については、金銭面で保護者に大きな負担となりうることもあります。

今後、まだまだ話題になるでしょう。午年です、１０年後の教育についても思いを馳せてみました。

教育実践記録へ多数の応募ありがとうございました。

教育実践記録に、小学校８名、中学校７名の先生方から応募がありました。今年度の自分の教育実践を見直し、実践記録としてまとめて頂きました。忙しい中、実践をまとめるということは大変なことだとは思いますが、きっとこれからの教師としての財産になっていくと思います。

また、各学校で、直接指導に当たられた、教頭先生はじめ関係の先生方に感謝申し上げます。さらに、今年度は、研究所指導員の先生方にも、各専門分野の実践についてアドバイスをお願いし、ご指導して頂きました。重ねてお礼申し上げます。

「教師を育てる」ということは、大変なことです。しかし、教師である以上、若い時代に教育実践をまとめるという経験をしてきたかどうかが、その先生の将来を大きく左右します。きっと、今回厳しく指導を受けられた先生方は、１０年後、２０年後に教育を熱く語れる教師に成長されていることでしょう。ご指導ありがとうございました。

２月１４日に全応募者に感謝と励ましの意を表するために、表彰式を予定しております。また、優秀作品につきましては、岐阜大学実践論文に応募させて頂きます。

教育実践記録表彰式　平成２６年２月１４日（金）　１５：３０～１６：００
会　場　　美濃市中央公民館　３階　学習室

	氏名	職名	学校名	研　究　内　容	領域
1	作倉　誠	教諭	美濃小	自ら学び、確かな学力を身に付けるための少人数指導のあり方 ～基礎学力定着サポートプランの課題に向けて～	算数
2	平林明憲	教諭	美濃小	自ら読み進め、仲間とともに読みを深める児童の育成	国語
3	林　由紀	教諭	牧谷小	音楽の美しさや楽しさを求め続け、進んで音楽表現できる子をめざして	音楽
4	堺　さおり	教諭	大矢田小	算数的活動を大切にし、書きながら自分の考えを明らかにする指導の工夫	算数
5	西部亜美	講師	藍見小	自信をもってかかわり合う子どもの育成～算数科において、自分の考えを深め、より確かにするための指導の工夫を通して～	算数
6	石原剛太郎	教諭	藍見小	一人一人が主体的に学び、仲間と共に喜びを味わう体育学習の創造	体育
7	熊崎達也	教諭	中有知小	要支援児童の教育的ニーズに応える特別支援教育のあり方 ～A児の算数の指導を通して～	特別支援
8	堀　春美	講師	中有知小	学習力・生活力を身につけ、個が生きる特別支援のあり方 ～個の教育的ニーズに合う具体的な支援の方途をさぐる～	特別支援
9	古田昌寛	教諭	美濃中	統計的思考を身に付けることができる生徒の育成～資料の傾向をとらえ説明することの良さを感じることのできる指導の工夫	数学
１０	中根信也	教諭	美濃中	自ら意欲的に学習する生徒の育成 ～技術科における課題追究の視点・個に応じた手立ての明確化～	技術科
１１	古田大道	教諭	美濃中	意欲的に環境美化活動に取り組む生徒の育成 ～環境美化活動を価値付けるための指導の工夫～	特別活動
１２	水木佳恵	教諭	美濃中	生き生きと自分の考えを話すことができる活発な授業をめざして～自分の意見や考えがもてるノート指導を通して～	国語
１３	中原優香	教諭	美濃中	集団生活の中で前向きに生活できる生徒をめざして ～相手の気持ちを想像する力・規則を守る力～	特別支援
１４	舩坂久美子	教諭	昭和中	生徒が主体的に活動できる場の設定と支援の在り方 ～抽出生への手立ての工夫を通して～	特別支援
１５	辻本　佳織	教諭	昭和中	生徒の思いを大切にした学級経営 ～学級目標に迫るための「笑顔の木」の活動を通して～	学級経営

教育研究所講座等へのアンケートのご協力ありがとうございました。

昨年末に行いました教育研究所講座等へのアンケートのご協力ありがとうございました。多くの先生方から前向きなご意見をいただき、その集計結果を参考に、現在Ｈ２６年度の講座開設に向け、校長会等と連携を図りながら検討を進めています。大きく次のように考えております。

◎研究所講座関係

・大筋は今年度と大きく変わらない（講座数・開催時期・開催日時・参加は希望性優先）
・学級経営やＱＵなどの教育の基盤となる講座の継続充実
・美濃学関係講座の継続・発展。新たなる研修内容の開発
・新規に下記の様な講座を開設できないか検討
　・特別支援教育コーディネーターに関わる講座を開設し相談関係を充実
　・創造展の作品から学ぶ会を継続実施したい
　・応急手当普及員講座の実施
・研究所指導員や所員等の講座への積極的な活用

（アンケート結果の声から）
１，こんな講座があったらいいな
・学級経営中学校版
・ＱＵの活用法講座や各学校での具体的な指導
・実技教科の指導
・発達障がいや教育相談の講座の増設
・情報モラル教育や危機管理に関わる講座
・美濃学３講座の継続・創造展の作品鑑賞講座
２，開設時間等
・今年度と同様の時間帯や時期で、希望制重視
３，関市との合同講座はもっとやってほしい
４，研究所指導員の活躍の場と工夫を
５，教育資料のさらなるデータバンク化

◎教職員の自主的な資質向上の意識のために

・美濃市教職員としての悉皆的研修講座（美濃学・ＱＵなど３年に１回は受講を薦めたい）
・関市との合同講座の継続

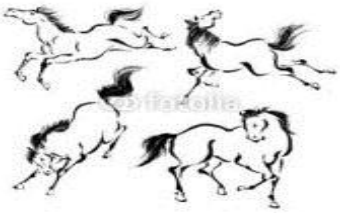
◎県や美濃市教育委員会や校長会等と連携した研修の推進

・出前講座や県センター講座の活用を薦め、希望に添っていきたい（教科・情報・危機管理など）

◎教育資料のデータバンク化の推進（承諾書と個人情報保護に配慮）

＊アンケートにはいろいろなご意見や正反対のご意見もあり、全てに対応することはなかなかできませんが、自分たちの研究所の研修だとの思いから、研修や諸事業に対して前向きなご意見が多く寄せられ大変ありがたく思っております。お忙しい中、本当にありがとうございました。今後検討を重ね、３月の所報には開設講座をお知らせしたいと考えております。

雑感　　～　人間万事塞翁が馬　～



今年は、午年です。藤川教育長さんが、午年にちなんで仕事始め式や校長会の折り「人間万事塞翁が馬」の話をされました。

昔、国境の塞の近くに一人の老人が住んでいました。ある日その老人が飼っていた馬が、北方の他の国へ逃げてしまった。周りの人々は、慰めたが、老人は「これが幸いとなるだろう」と言った。やがて、逃げた馬が北方から別の駿馬を引き連れて帰って来た。人々がお祝いをすると、老人が「これが禍となるかもしれない」と言った。やがてその家には良馬が増えたが、老人の息子がその馬から落ちて足の骨を折ってしまった。人々がお見舞いをすると、「これが幸いとなるだろう」と言った。１年が過ぎるころ、隣国との大きな戦争があり、ほとんどの若者が戦死したが､この息子は足が不自由なため戦争に召集されず､父と生きながらえることができた。との故事です。幸、不幸だけでなく、いつ反転するかも分からない変化に対応する構えが必要と話されました。

さて、私は今年。「将を射んとすれば先ず馬を射よ」などと言われ「尻馬に乗」って「生き馬の目を抜く」様なことをして「馬脚を現す」ことがないように、「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ」と「馬が合う」「竹馬の友」と世間のことには「馬耳東風」と聞き流し「天高く馬肥え」て「天馬空を行き」ながら「無事これ名馬」と「白馬蘆花に入る」ごとくありたいと思っています。

今年度も後少しとなりましたが、よろしくお願い致します。